

報告1-2

地域と市区町村、都道府県が方向性と力を合わせて
経年的に取り組む

平成29年 6月22日 第1回
認知症地域支援体制推進全国合同セミナー
認知症介護研究・研修東京センター

京丹後市の認知症施策

～認知症になっても安心して暮らせる地域を目指して～



こっぺちゃん

京丹後市 健康長寿福祉部長寿福祉課
京丹後市地域包括支援センター

主任保健師 藤村 綾

主任保健師 竹内 歩己

京丹後市の概要

- H16年に6町(峰山町・大宮町・丹後町・弥栄町・網野町・久美浜町)が合併し、京丹後市へ
 - 面積 約501km²
 - 総人口 56,337人
 - 65歳以上人口 19,597人
 - 高齢化率 34.79%
 - 要介護認定者率 19.0%
 - 地域包括支援センター 直営1か所
 - ～H28年度(本庁1センター及び5分室)
 - H29年度～(本庁1センター及び1分室)
- 平成29年4月1日現在

京丹後市の認知症施策ヒストリー

平成18年度末: 丹後保健所主催「認知症ケアネットワーク研修」での事業報告
⇒ 認知症予防事業の地区での取り組みを報告



平成19年度: 京都府より「モデル事業に取り組んでみないか？」
⇒ この年、キャラバン・メイト養成研修に参加・・・包括職員8名と事務担当1名がキャラバンメイトに

平成20年度: 認知症地域支援体制構築等推進モデル事業に着手
スローガンは「知る」「つながる」「広がる」そして見守り支えあえる地域づくり
⇒ サポーター養成をベースに、①地域資源マップ作り(丹後地域)②徘徊SOSネットワークと検索模擬訓練の実施(網野地域)③認知症になっても安心して暮らせる地域の作り方を検証、災害時用援護者マップの作成(弥栄地域)
☆ 京都府と一緒に各取り組みを進めていった。

担当のこだわりは、

『**打上げ花火で終わらせない!**』

『**モデル事業後に続けていける仕組みづくりをする!**』

京丹後市の認知症施策

目標：認知症のかたやその家族を地域で支える仕組みを作り、誰もが安心して暮らせる地域を目指す。

1 普及啓発

- 認知症サポーター養成講座
- 認知症ケアパス(H26年度～各町の地域ケア推進会議を活用して検討)

2 関係機関との連携強化

- キャラバン・メイト養成研修・連絡会議・フォローアップ研修
- 地域ケア推進会議 他

3 地域で支える仕組みづくり

- 京丹後市徘徊SOSネットワーク構築(H22年度) 情報伝達訓練
- 認知症初期集中支援チーム(H28年度～)
- 認知症ケアパス(H27年度完成)
- 認知症カフェ(H25年度～社会福祉法人への委託)
- 認知症のかたを介護する介護者の集い 他

大切にしてきたこと

- 各地域で起こっていることを大切に
- 市の施策は、地域の事業所と一緒に進めてきた。
- しないといけないことはいっぱいあるけど・・・小さなことをコツコツと続けてきた。

取り組みながら生まれてきている変化や成果

- ・「声かけ訓練なんて意味がない」
- ・「徘徊している人が歩いていたら、警察に連絡したらいい」
- ・「キャラバンメイト？サポーター？そんなもん役に立つんですか？」

と言っていたケアマネさんたちが・・・



- ・近所の人を集めて認知症サポーター養成講座を開催。
- ・「キャラバンメイト養成講座を市でやってほしい！」
- ・「若年性認知症の〇〇さんのために認知症カフェを開設したい。」「認知症カフェは補助がなくなったとしても続けていきます！」
- ・地域の事業所が、事業所の垣根を越えてグループを作り、一緒に活動したり、家族を巻き込んで普及啓発に取り組んでいるところも。

現在の課題

普及啓発

- 認知症の理解は、まだまだ
- SOSネットワーク・事前登録が周知されていない。

関係機関との連携

- 地域により活動の差がある。

地域を支える仕組みづくり

- SOSネットの稼働は少ないが、稼働寸前に発見される事例が時々起きている。
- SOSネット模擬訓練を一部の地域でしか、行えていない。
- 介護保険のサービス以外に若年性認知症の人を支える仕組みが少ない。

今後展開していきたいこと

普及啓発

- 「認知症」を自分のこととして考えられる人を増やしていくこと
- SOSネットワーク・事前登録の周知
- 位置検索サービス利用補助事業の周知

関係機関との連携

- 活動できる仲間を増やしていくこと。

地域を支える仕組みづくり

- 徘徊はしても行方不明にならないために…⇒住民の理解と協力
- 広域での模擬訓練や、地域の方を巻きこんでの訓練を、6町すべてで実施していきたい
- 「認知症」=「終わりではない」と思ってもらえるように…

それで、今の京丹後市は？

①安心して出かけられ、気楽に話せる場所はあるか

認知症の診断を受けると...

- 一人で出かけるなんて...誰か家族と一緒にないと危ない、「迷惑をかける」
- 専門医療機関が少ない、近くの病院は知り合いが多いので「見られたくない・知られたくない」
 - 遠くの専門機関へ月に1回受診(特に若い人は)
- 進行し、介護が必要になると「デイサービス」。当地域では、80歳代前半では、「まだ若い！」
 - 若年性認知症の人が安心して出かけられるところは...？

「認知症だったら、そういうもの」という、風潮・・・？

② 「〇〇したい」という当たり前は、 当たり前に あるか

○初期の認知症、若年性認知症のかたが利用できるサービスはある？

- * 介護保険のデイはちょっとまだ・・・(行きたくない)
- * 地域のサロンやカフェは高齢化率100%

○仕事は、会社の協力もあって続けられるけど、余暇の過ごし方は？

- * 休日は部屋に閉じこもり、「動くのはタバコを吸いに外に出るだけ・・・」と奥さん
- * 「仕事に行けなくなってから、どうやって過ごしたらいいんだろう」

「住み慣れた地域で安心して暮らす」 を支える

最初は、関係者だけの動きだった認知症支援の取り組みが、住民の中にも広がる。特別なことではなく、「卓球がしたい」「山登りをしよう」に応えられる地域の取り組みが生まれた。

○病院受診やデイではない外出を支援する、移動支援

NPO

○じゃあまずは市内の山を制覇だ！カフェから派生した
取り組み

○私たちも地域のために何かできれば・・・退職者が地
域貢献として居場所づくり

行きたいところに行ける、したいことができる。これが地域での暮らし。
この当たり前前のが、認知症だからとあきらめなくてもよい京丹後市
にしたい。

一人一人を大切に

「一度は、富士山に登りたい」

「また、魚釣りに行きたい」

この声が、どこかにつながり、誰かと一緒に山登りや魚釣りができたら、そんなことが繰り返してできるようになれば。

そのために私たちが取り組むことは・・・

つながりをどれだけ作るか

認知症のために、切れてしまいがちなつながりを、いかに切らずに、切れてしまっていたらつなぎなおして、また必要に応じて新しくつながりを作って。

これまでの認知症施策で出会ってきた多くの人、取り組んできたこと、これらを有効につなぎ合わせて、お一人お一人に確実に届けることが、私たちの役割かと思っています。

「京丹後市には何も期待していない」

カフェを運営している法人職員さんに、一度だけカフェに来られた若年性認知症のご本人が言われた言葉です。行きたい場所、したいことができるところ、それを支援してくれる人、いずれにも「期待していない」ということでした。

年数を重ねて、結構いろいろ取り組んで来たと思っておりますが、それでもこのような言葉を受け、やっぱり続けることの大事さを痛感しています。

この言葉を知らせてくれた法人職員さんに感謝！聞こえないふりをせずしっかり受け止め、お一人の、一つの言葉を大切に、そして一人から地域へという視野を持ちつつ、さらに取り組みを続けたいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。